Letter of the M.Y. elementary school

ひ び き　南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい　かがやく子 ～

学校通信　NO.323
令和　５年度　５月号
令和　５年４月２８日

枠にはめるより、枠を創り出せる子に

校長　鈴木　智彦

通勤で使用する駅の構内に燕が帰ってきました。去年使用した巣をつかって今年も子育てが始まります。雛の成長が、この時期の通勤を彩り豊かにしてくれます。

今、校内で１年生が生活科の学習で「学校探検」をしています。

１年生にとっては、就学時健康診断や入学式等でいくつかの場所に行ったことがあるとはいえ、まだまだ校内は、知らない場所が多く、興味が尽きません。そんな中、「グループで探検する」ということで子どもたちのテンションはとても高まりました。その結果、相手の都合を考えず、いろんな部屋に勝手に入ったり、そこにある物を手当たり次第に触ったり、廊下を走ったり…といった姿が見受けられました。

たんけんみーなちゃん

私たち大人はそういった場合、「～してはいけません」とその場で指導し、枠に当てはめようとしがちではないでしょうか。しかし、そこから子どもの主体性は育つのでしょうか？

「学校探検」からもどったそれぞれのクラスの子どもたちに、「１年生の探検の仕方で先生たちが困っている」ということを伝えました。

○いきなり入ってくること	○そこにある物を勝手に触ること
○校内を走ること	○大きな声で話すこと

等です。

その上で、「どうすれば困らないか考えて欲しい」と伝えると、「わかりました」と元気な返事が返ってきました。

「１年○組○○です。学校探検に来ました。職員室に入っていいですか？」
今はこんな言葉とともにゆっくり歩きながら、上手に学校探検をする姿を見かけます。
グループで行動する子もいれば、一人で探検している子もいますが、みんな、迷惑にならないよう心がけています。きっとクラスでよい話合いが出来たのでしょう。与えられた約束ではなく、自分たちで状況を考えて決めた約束だから、その意義もよくわかり、守ろうとするのではないでしょうか。

各学年の懇談会にご参加、ありがとうございます。子どもたちの新しいスタートを、学校、家庭、地域で支えていきたいと思います。よろしくお願いします。